

平成 25 年度 記者懇談会（第 3 回）の記録

- 日 時 平成 25 年 7 月 2 日（火）午後 3 時 00 分
場 所 水道庁舎 4 階 会議室
記者数 9 人
同席者 阿部副市長、上谷副市長、総務部長、企画財政部長、経済部長
次 第 1 平成 25 年度 ポカテロ市姉妹都市訪問団について
2 市政地区懇談会の開催について
3 市長政策ヒアリング（サマーレビュー）について
4 岩見沢市アンテナショップのオープンについて
5 その他について

1 平成 25 年度 ポカテロ市姉妹都市訪問団について

説明内容

（市長）

最初は「平成 25 年度 ポカテロ市姉妹都市訪問団」について、でございます。

まず、ポカテロ市との姉妹都市交流の経緯についてご説明いたします。

お手元の資料 1 をご覧ください。

ポカテロ市との姉妹都市交流は昭和 60 年 5 月 20 日に姉妹都市締結を交わしてから今年で 28 年目となります。これまで鳥インフルエンザや東日本大震災の影響等により、交流が出来ない年もありましたが、岩見沢市からは市民、中高生訪問団が計 25 回、延べ 378 名がポカテロ市を訪問、またポカテロ市からは市民、中高生訪問団が計 24 回、延べ 364 名が岩見沢市を訪れております。

余談ではございますが、昭和 60 年の第 1 回訪問団の副団長は私でして、第 2 回は団長としてポカテロ市を訪問しております。初めてポカテロ市を訪問した岩見沢市民の 1 人が私でございます。

次に、今年度のポカテロ市との姉妹都市交流について、ご説明いたします。

お手元の資料 2 をご覧ください。ポカテロ市から岩見沢市を訪問する中高生訪問団について、でございます。

今年は中高生が 12 名と団長ご夫妻の合計 14 名の訪問団となります。現地時間の 7 月 9 日にポカテロ市を出発し、日本時間の翌 10 日午後 8 時 30 分過ぎ、新千歳空港に到着。その日は、メープルロッジに宿泊いたします。

11 日から市内での交流が始まり、市長表敬、ホストファミリーとの対面式を行い、午後 6 時から市主催の歓迎会を行います。12 日には毎年の風物詩であります、彩花まつりでの観光踊りパレードに参加します。

22 日まで 13 日間の滞在期間中、市内の学校訪問、各種行事への参加、また日本文化の体験などを予定しております。お別れ会は 20 日に開催する予定となっております。

また、岩見沢滞在中は、市内 13 のご家庭にホームステイし、土・日曜、祝日はステイ先のご家庭との交流となります。

続きまして、岩見沢からの訪問団の派遣について、ご説明いたします。お手元の資料 3 をご覧ください。

派遣期間は 7 月 29 日から 8 月 13 日までの 16 日間となります。訪問団の構成は高校生 4 名、中学生 6 名、引率する団長 1 名の合計 11 名となっております。なお、例年、市の職員が団長を務めており、今年は農政部農務課の佐藤法幸（さとうのりゆき、35 歳）が団長を務めます。

今年はこの訪問団の募集に 18 名の応募があり、市内の国際交流団体の役員、市職員で構成する審査員による書類、作文審査で 10 名に、決定いたしました。

ポカテロ滞在中の詳細なスケジュールはまだ届いておりませんが、ポカテロ市長主催の歓迎会、アイダホ州立大学の見学等の行事に参加する予定でございます。

ポカテロ市には 8 月 11 日まで滞在し、その後、サンフランシスコに移動いたします。サンフランシスコで市内見学その他、毎年恒例となっております、サンフランシスコ在住の北海道出身者及びその子孫で構成する、「北カリフォルニアどさんこ会」の役員の皆さんと夕食を共にいたします。

サンフランシスコには 1 泊し、翌 12 日にアメリカを離れ、13 日午後、日本に帰国。岩見沢には午後 11 時過ぎに到着する予定となっております。

訪問団員の皆さんは、訪問団説明会や英会話教室等の準備を経て、今年の岩見沢市の代表としてポカテロに出発しますので、岩見沢市とポカテロ市の交流をさらに発展、継続してくれるものと思います。

またアメリカでの見聞きしたことや経験したことは、岩見沢市の子どもたちにも少なからず良い影響をもたらしてくれるものと期待しております。

2 市政地区懇談会の開催について

説明内容

（市長）

次は、「市政地区懇談会」について、でございます。

本年度から行政としての説明責任を果たし、市民と行政との信頼関係を築くとともに、市政に対する市民ニーズを把握し施策に反映させることを目的として、市政地区懇談会を開催することといたしました。

これまで、町会連合会のご協力をいただき、常任理事会などにおいて、開催方法についてご相談させていただきまして、貴重なご意見をいただきながら別紙開催要領を設定したところでございます。

開催地域は、市内に 26 地区ある町会連合会の地区協議会単位で開催することとし、開催時期は、7 月、10 月、1 月、4 月、概ね定例会終了の翌月を基本として、各月 2～3 の地区での開催としたところであります。

開催当日は、私から市政の現状や課題について報告させていただき、それについてのご質問やご意見をいただき、その後、市政全般についての質問やご意見を伺っていきたくと考えております。

現在、各地区協議会から開催の希望についての取りまとめ、調整を行っているところですが、13か所の地区協議会から年度内の開催希望を受けておまして、7月26日(金)午後6時から、ほっとかん 大ホールで開催の幌向地区連絡協議会の市政地区懇談会が最初の開催となります。

3 市長政策ヒアリング（サマーレビュー）について

説明内容

（市長）

続きまして、「市長政策ヒアリング（サマーレビュー）」について、でございます。7月3日からサマーレビューと称して、平成26年度の予算編成あるいは岩見沢市が抱えるさまざまな課題に対応していくため、将来に向けた施策の展開の方向性を議論していくことといたしました。

まず、「実施の目的」ですが、「ポイント1」をご覧ください。

「急激な人口減少への対応」という大きな課題がございます。

今年3月、厚生労働省の国立社会保障・人口問題研究所が発表した将来推計人口によりますと、岩見沢市の人口は、現在の約88,000人（H25.6.30現在87,885人）が、27年後の2040年には、60,523人へと、現在より30%以上減少するものと推計されており、この急激な人口減少により、生産年齢人口の減少、ますます顕著となる少子高齢化など、人口構造も大きく変化してまいります。

さらには、税収の減少や地方交付税などへの影響が避けられないわけでありまして。そして、何よりも、まちの元気が一層損なわれていくことが懸念される状況の中で、「ポイント2」にございますように、「市民の満足度を高める行政サービスの展開」を進めていかなければならず、将来を見据え、職員の意識改革により、いかに施策の質・量・スピードを高めていくか、ということが、まちの将来を大きく左右いたしますことから、職員の意識改革を図る一つの手法として、本年1月には職員提案制度を実施したところであります。

さらに、これを一步前進させ、各部・各課が方針を立て、PDCAのマネジメントサイクルを展開し、結果とプロセスを評価し、改善を進めながら組織全体として目標の達成を目指す、「方針管理制度」の導入を予定しているところであり、これは「職員の意識改革と政策形成能力の向上」や「目的を共有した組織的な業務の展開」、「タイムマネジメントの実践」などを、そのねらいとするものであります。

そこで、今回実施いたします「サマーレビュー」では、課題項目を選定し、市長・副市長と13人の部長職が参加する、横断的なディスカッション手法により、今後の方向性を議論していくことといたしました。

具体的な「課題項目」といたしましては、「総合的な雪対策」や「防災対策」をはじめ31におよぶ『政策課題項目』や『平成26年度に向けた重点施策』、『喫緊な課題』

を項目として、7月3日（水）から、7月末を目途としてサマーレビューの実施を予定しております。

「政策ヒア ポイント1」をご覧くださいますと、人口が激減する様子が目に見えて明らかになっておりますが、人口減少、少子高齢化に伴う、地域経済の衰退や税収・交付税などの減少を踏まえ、人口減少に歯止めをかける施策の構築、地域コミュニティづくりや未来のまちづくりに繋がる施策展開を進めなければなりません。

そのために「政策ヒア ポイント2」に記載いたしましたように、市役所はサービス業であるといった、市民の立場に立って、多様化・高度化する市民ニーズに対応すべく、市民のために汗を流し、職員の意識改革を高めることに大きく繋がる、施策の質・量・スピードを高める方針管理の徹底などにより、安全安心な市民生活の質的向上・地域の活性化に図ることができるよう、議論を進めていくことといたしました。

4 岩見沢市アンテナショップのオープンについて

説明内容

（市長）

続きまして、「岩見沢市アンテナショップ」のオープンについて、でございます。

岩見沢市農産物消費拡大推進協議会において開店準備を進めておりました岩見沢市アンテナショップ「いわみちゃん♪マルシェ」が、7月6日（土）午前9時オープンの運びとなりました。

朝採り野菜を中心に、加工品など、岩見沢の特産品を販売するとともに、岩見沢市を知っていただくため、「食」や「観光」などの情報を発信し、知名度の向上や観光客の誘致を促進してまいります。

まず、資料の1ページでございますが、

これまで、平成22年度から東京都板橋区大山商店街における首都圏アンテナショップでの常設販売や、釧路市・紋別市と産地間交流などを行ってまいりましたが、岩見沢産の特産品を売り込む機会が限定されておりました。

そこで、岩見沢市から近郊である札幌市において販路拡大の機会を見出すこととし、しっかりと「顔の見える関係」の構築に努め、「岩見沢産」という名前をしっかりと消費者やバイヤーの方々に認知をしていただくことがブランド化へ結びつくことから、事業を展開してまいりたいと考えております。

資料の2ページでございます。

岩見沢市の農業の現状といたしましては、水稻、小麦、玉ねぎ等が基幹作物になっておりますが、東部丘陵地帯は、リンゴやぶどう、さくらんぼなどの果樹生産地帯となっており、また、花きについても道内有数の収穫量を誇っております。

資料の3ページでございます。

札幌圏に近いという地の利をいかし、岩見沢産農産物をはじめ加工品を含む特産品を「見てもらい」「知ってもらい」「買ってもらう」ことによって、新たな販路拡大を目指すとともに、岩見沢へ来ていただけるよう、地域の情報を発信してまいります。

資料の4ページでございます。

「いわみちゃん♪マルシェ」の周辺図を載せておりますが、店舗の場所は、札幌市白石区北郷3条12丁目で、北13条北郷通り沿いに位置しており、JR平和駅から徒歩5分のところでございます。

営業時間は、午前10時から午後5時、定休日は火曜日となっております。

5ページから7ページまでは、「野菜出荷予定カレンダー」になっておりまして、標準的な出荷予定のカレンダーになっております。

「アンテナショップオープニング」でございますが、

資料8ページに記載の4名で午前9時にテープカットを行います。

また、オープニング・イベントとして、切り花（アルストロメリアとひまわり）の無料配布、岩見沢産ななつぼしを使用した「俵むすび」「ごま塩むすび」、岩見沢産小麦で加工した「かりんとう」「南部せんべい」の試食コーナーや、岩見沢産ミニトマトジュースの試飲コーナーを用意しているほか、小学生以下のお子さんには、岩見沢市農産物消費拡大推進協議会キャラクターである「いわみちゃん♪」シールを無料配布します。

なお、アンテナショップオープンに当たり、岩見沢農業高校・生活科学科2年生の生徒の皆さんに、ご協力をいただきまして、司会進行を含むオープニングの運営全般、試食・試飲コーナーのインフォメーションなど、当日のお手伝いをしていただくほか、アンテナショップにおけるプライスカード（値札）も作成していただく予定でございます。

質疑応答

（北海道新聞）

いわみちゃんマルシェの関係ですが、開設期間は3年でしたでしょうか。ずっと、何年やるとか決めていたわけではなかったでしょうか。

（市長）

当面、3年間程度継続していきたい、と考えております。

（北海道新聞）

目的と言いますか、どういうことをすれば成功なのかなあと考えたのですが、要するに、農産物を売るのがあったら売上目標と言うのがあると思うんですが。そうすると赤字・黒字の分岐点だとか、売り上げこれだけあがったら、人件費がこれぐらいだからとか、赤黒の分岐点て出て来るんですけど、そういう収益でプラスを目指すとか、まあ、それは収益部分なんですけれども、収益部分のプラスを目指していくのか、それ以外にいろんな役割を付与して、行政的な役割もあるのかもしれないんですが、別に収益が赤でもそれ以外の役割もあると思うので、別な目的があるかもしれないのですが、何が最終目的なのか、まあ収益が黒であればずっと続けていくこともできるわけですが、どこら辺を目標に置いているのかを教えてください。

(市長)

岩見沢は札幌から約 40 キロと地理的には非常に恵まれている訳で、岩見沢の情報が札幌に十分提供されているかと言うと、実はそういう状況ではではないのが現実です。観光情報にしろ、宿泊の情報にしろ、それから農産物の情報にしろ、実はなかなかないのが現実でございまして、アンテナショップにつきましては、岩見沢の基幹産業であります農業の、農産物を知ってもらい、買ってもらい、見てもらいと言うことはもちろんでございしますが、「見てもらい」「買ってもらい」「知ってもらい」、特に「知ってもらい」「見てもらい」につきましては、岩見沢市の魅力、例えば、観光分野であったり、いろんな、まちの魅力を総合的に周知できるよう、そういうディスプレイができるような、そんなことも実は考えています。

もちろんご指摘のように、農産物の販売だけで、ビジネスサイクルとして黒字が確保できれば、一定の継続性も見込めるわけですが、まずは 3 年間きちんと私どもと関係者の皆さんも含めて努力させていただきたい、スタートしてまいりたいと考えております。

(北海道新聞)

販売する農作物なんですが、市価、普通のスーパーなんかで売っているものと比較して、お値段って、ちょっぴり安かったりするんでしょうか。

(市長)

青果物は農協さんからの出荷なので、農協として適切な価格で販売されますが、何より新鮮で美味しいものが店頭には並ぶということになるかと思っています。また出荷も無理のある時期に無理なものを出荷するのではなく、一番良い時期に美味しいものを食べていただくということを考えております。青果物が中心になるかと思いません。その他にはお米や加工品も出していくことも考えています。

(毎日新聞)

ここ北斗団地の中ですよ。例えば地下鉄駅沿線ですとかターミナル駅だとか、そういうターゲットとかは考えなかったのですか。

(市長)

考えなかった訳ではありませんが、例えば札幌のどさんこプラザとか、地下の歩行空間とかもあります。そういったところで、お米を 10 キロ買われた際に、持って帰れるかという、なかなか買ってもらえないだろうと。変な話、2 キロでも重たいのかなと、思うところもありまして、むしろ岩見沢の良さを知っていただくのであれば美味しい野菜だとかを大量にお安くお買い求めいただけたらと思うので、そういう点では自家用車でも来れる、あるいは、公共交通機関をご利用の方は JR の駅も近いので、そういったことも可能かなと。むしろ車で来ること想定して郊外に出店したということとでございまして。

(毎日新聞)

確か近くに生協があったかと記憶しているのですが。

(市長)

隣接で大きい店舗は、そうですね、生協があります。

(毎日新聞)

駐車場はそこを（使うことになるのでしょうか）。

(市長)

いいえ、店舗の前に4台分の駐車スペースを確保してあります。昔コンビニエンスストアだったところなもので。

(毎日新聞)

北斗公園のどっち側でしょうか。

(市長)

線路側になります。

(毎日新聞)

13条通りでしょ。こちらから行くと、右側に生協がある。その手前？向こう側？

(市長)

向こう側（奥）になります。

(経済部長)

ことらから行くと、右側になります。

(北海道新聞)

集客の目玉、と言いますか、何で（どんな商品で）人を呼び込もうと考えているのでしょうか。

(市長)

商店街に青果物を扱う店舗が少なくなっていることもあり、また、大きな店舗にはその店舗なりの良さと言うものがあるのですが、採れたての新鮮な野菜がここでは買える、安全・安心で美味しい食材が手に入る、と言うのが売りであり、魅力だと思えます。

(北海道新聞)

朝もぎとかをやる考えはあるのでしょうか。

(市長)

当日収穫したものを店頭で並べることを考えています。市としては常設でこのような形で行うのは初めてになります。

(北海道新聞)

道内でも（こういう取り組みは）珍しいのでしょうか。

(市長)

どうでしょうか。青果物はホクレン系の流通ルートに乗ってしまうと言うのが多いと思うので、なかなか無いかもしれませんね。

5 その他について（記者からの質問）

質疑応答

なし

（注）記録の内容については、重複した言葉遣いや、明らかな言い直しがあったものなどを整理した上で作成しています。（作成：岩見沢市秘書課広報係）